



きしもと よした
岸本 吉太
(1901-1989)

写真館店主
被爆時年齢：43 歳

牛田の疎開先で被爆。8 歳の娘を原爆で亡くし失意に暮れていたが、中国配電の依頼で被害を受けた電気施設を撮影。本社屋上から 8 年間、復興する広島を撮り続けた。

遺影登録：2021 年 7 月



お き まさみ
尾木 正己
(1914-2007)

呉海軍工廠設計係
被爆時年齢：31 歳

呉海軍工廠から、さく烈後約 40 分のキノコ雲を撮影。翌 7 日、救助隊に加わり入市し、市内の惨状を収めた。

遺影登録：2021 年 7 月

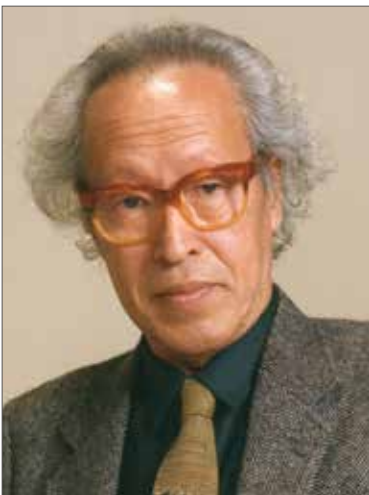


くろいし まさる
黒石 勝
(1913-1990)

レントゲン技手
被爆時年齢：33 歳

家族の疎開先から 8 月 7 日に広島赤十字病院へ戻り、収容者らを手当した。当時副院長だった重藤文男氏の指示で同僚と共に、主に患者を撮影した。

遺影登録：2021 年 8 月



きしだ みつぎ
岸田 貢宜
(1916-1988)

広島師団司令部報道班
被爆時年齢：29 歳

出張先から戻り 6 日に入市。翌日、爆心地東 480m の自宅跡からくすぶる市中心部を撮影し、紙屋町交差点に行く救援隊も収めた。

遺影登録：2021 年 9 月



おだ ごろう
織田 吾郎
(1912-1999)

食糧生産指導
被爆時年齢：32 歳

爆心地から約 40 km の自宅(安芸高田市)からキノコ雲を撮影。8 月 6 日夕刻、妻の両親の救助のため広島市内へ向け出発し、7 日未明に入市。

遺影登録：2021 年 11 月



ふかだ としお
深田 敏夫
(1928-2009)

陸軍兵器補給廠勤務
被爆時年齢：16 歳

兵器補給廠で被爆。兵器庫の 2 階の窓から、さく烈後約 5~10 分のキノコ雲 4 枚を連写した。

遺影登録：2021 年 12 月



きたむら ひさお

北村 久夫

(1923－1988)

毛筆製作業者

被爆時年齢：21 歳

広島市の南東約 13km、安芸郡熊野町の自宅兼作業場から約 20 分後の原子雲を撮影。熊野の警防団員として、8 月 7 日に入市し救護にあたった。

遺影登録：2004 年 7 月



まつしげ よしと

松重 美人

(1913－2005)

新聞社写真部員

被爆時年齢：32 歳

翠町の自宅で被爆。あまりの惨状に躊躇しながらも、5 枚を撮影した。8 月 6 日に原爆投下直後の被爆者を収めた唯一人のカメラマンとなった。

遺影登録：2005 年 12 月



おぬか まさみ

尾糠 政美

(1921－2011)

陸軍船舶司令部写真班

被爆時年齢：23 歳

船舶司令部で被爆。7 日から軍医に伴い、各救護所の被災者を撮影した。母を捜したが、結局見つからなかった。

遺影登録：2012 年 3 月